

様式第1号

令和6年 6月 30日

和歌山県知事 岸本 周平 殿

〔設置者の名称〕 三木 繁清

〔代表者の役職〕 学校長 〔代表者の氏名〕 三木 繁清

大学等における修学の支援に関する法律第7条第1項の確認に係る申請書

○申請者に関する情報

大学等の名称	和歌山コンピュータビジネス専門学校
大学等の種類 (いずれかに○を付すこと)	(大学・短期大学・高等専門学校・ <u>専門学校</u> )
大学等の所在地	和歌山市黒田 41-1
学長又は校長の氏名	三木 繁清
設置者の名称	三木 繁清
設置者の主たる事務所の所在地	和歌山市黒田 41-1
設置者の代表者の氏名	三木 繁清
申請書を公表する予定のホームページアドレス	<a href="https://www.myros.ac.jp/">https://www.myros.ac.jp/</a>

※ 以下のいずれかの□にレ点 (☑) を付けて下さい。

□確認申請

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第5条第1項に基づき確認申請書を提出します。

☑ 更新確認申請書の提出

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第5条第3項に基づき更新確認申請書を提出します。

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべての□にレ点 (☑) を付けて下さい。

☑ この申請書 (添付書類を含む。) の記載内容は、事実と相違ありません。

☑ 確認を受けた大学等は、大学等における修学の支援に関する法律 (以下「大学等修学支援法」という。) に基づき、基準を満たす学生等を減免対象者として認定し、その授業料及び入学金を減免する義務があることを承知しています。

☑ 大学等が確認を取り消されたり、確認を辞退した場合も、減免対象者が卒業するまでの間、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

- この申請書に虚偽の記載をするなど、不正な行為をした場合には、確認を取り消されたり、交付された減免費用の返還を命じられる場合があるとともに、減免対象者が卒業するまでの間、自らが費用を負担して、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。
- 申請する大学等及びその設置者は、大学等修学支援法第7条第2項第3号及び第4号に該当します。

○各様式の担当者名と連絡先一覧

様式番号	所属部署・担当者名	電話番号	電子メールアドレス
第1号	校長 三木繁清	073-474-0200	Office@myros.ac.jp
第2号の1	副校長 日高亜季	073-474-0200	Office@myros.ac.jp
第2号の2	副校長 日高亜季	073-474-0200	Office@myros.ac.jp
第2号の3	副校長 日高亜季	073-474-0200	Office@myros.ac.jp
第2号の4	副校長 日高亜季	073-474-0200	Office@myros.ac.jp

○添付書類

※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点 (☑) を付けた上で、これらの書類を添付してください。(設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。)

「(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

- 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》

「(2)-①学外者である理事の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事（役員）名簿

「(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

- 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》【再掲】

その他

- 《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料
- 確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

# 【様式】 第2号の1～4－② 専門学校

(注) 様式第2号の1－②

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1－①を用いること。

(注) 様式第2号の2－②

※様式第2号の2－①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

(注) 様式第2号の4－②

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4－①を用いること。

(申請書を作成する際には、1頁目を削除すること)

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	和歌山コンピュータビジネス専門学校
設置者名	三木 繁清

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	IT科(4年制)ICTプロフェッショナルコース	夜・通信	2012時間(4年間)	320時間	
	IT科システムエンジニアコース	夜・通信	1548時間(2年間)	160時間	
	IT科ITエキスパートコース	夜・通信	1020時間(2年間)	160時間	
	IT科コンピュータグラフィックスコース	夜・通信	1016時間(2年間)	160時間	
	IT科国際ITビジネスコース	夜・通信	600時間(2年間)	160時間	
	IT基礎科ITビジネスコース	夜・通信	524時間(1年間)	80時間	
商業実務専門課程	ビジネス科公務員専攻コース	夜・通信			※
	ビジネス科公務員マスターコース	夜・通信			※
	ビジネス科国際マネジメントコース	夜・通信	480時間(2年間)	160時間	
	ビジネス科(4年制)DX経営イノベーションコース	夜・通信	2269時間	320時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.myros.ac.jp/syllabus/>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名 ビジネス科

(困難である理由)

ビジネス科は公務員を目指す学科としてカリキュラムが設定されているが、現役の公務員が副業で教鞭をとることが難しい為、要件を満たすことは困難である。またビジネス科国際ビジネスマネジメントコースは留学生を対象としたコースであるため、要件に該当しない。

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	和歌山コンピュータビジネス専門学校
設置者名	三木 繁清

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	学校評価委員会
役割	学校評価委員会は、推薦学科の専攻分野に関する企業等の役職員から広く選任し、①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体の役職員②学会や学術機関等の有識者③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員を選別し、委員より学校評価というを行うことで教職員間、また保護者や地域住民等がお互いに理解を深めることを目的としている。学校教育目標に向かうべくトルを合わせることで、双方の協力を得る。

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
株式会社スマート・インサイト 代表取締役	2024/3/1 ～ 2025/2/28	本校の卒業生が起業した海南市に立地するシステム開発会社であり、現状主力となっている和歌山でのプログラミングについての知見があり、シラバス作成についてアドバイスを頂いた。
(株)和歌山印刷所 出力部部长	2024/3/1 ～ 2025/2/28	本校の非常勤職員として、印刷会社のPhotoshop、illustratorなどの操作などを教えることで企業より協力いただき、授業の一端を担っていた。
和歌山情報サービス産業協会 産学交流推進部会 会長	2024/3/1 ～ 2025/2/28	和歌山情報サービス産業協会産学交流推進部会長として、本校と和歌山のIT企業の関連強化に尽力いただいた。
和歌山大学システム工学部 教授	2024/3/1 ～ 2025/2/28	先端のネットワーク技術の准教授で、本校の教育課程編成委員会の委員としてご意見を頂いた。
和歌山大学システム工学部 教授	2024/3/1 ～ 2025/2/28	先端のソフトウェア工学、ソフトウェア開発環境の開発を行う准教授で、本校の教育課程編成委員会の委員としてご意見を頂いた。
(株)ジーアイソフト 代表取締役	2024/3/1 ～ 2025/2/28	販売・生産・配送・給与など、汎用的に使われるソフトを自社で開発されており、本校の教育に実践的な考え方を取り入れる等、本校の教育課程編成委員会の委員としてご意見を頂いた。
(株)システムキューブ 代表取締役	2024/3/1 ～ 2025/2/28	システムやソフトウェアの開発、運用、保守などを通じ、業務効率化をサポートするシステム開発会社として、本校の教育課程編成委員会の委員と参加頂いている。
(備考)		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	和歌山コンピュータビジネス専門学校
設置者名	三木 繁清

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)                  職業実践専門課程認定を得るに際して、学校評価委員を決定するなど、授業計画に外部専門家の意見を取り入れ、委員会を開催する機会を授業に活かしている。またシラバスは以前から担当教員が記載し、学科長が取りまとめるなど、組織的な授業計画を行っており、HPでこれを公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	HPにて、シラバスを全教科公開している。 <a href="https://www.myros.ac.jp/syllabus/">https://www.myros.ac.jp/syllabus/</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)                  学習成績の評価は、下記の項目により総合的に判断して行う。ただし、科目により重点評価項目が異なる場合がある。</p> <p>(1) 評価項目 授業態度、出席状況、科目試験の結果、日常確認試験の結果、課題の提出と達成の状況、検定試験・模擬試験の結果、学習への取組姿勢。</p> <p>(2) 評価方法 評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当が他学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行う。</p> <p>(3) 評価基準 下記の評定のうち、「A・B・C」の評価により科目の修得(合格)を認定する。下記得点は評価の目安とする。</p> <p>A:科目の総合的評価が優秀である。100点満点換算で100点～80点                  B:科目の総合的評価が優良である。100点満点換算で79点～60点                  C:科目の総合的評価が良好である。100点満点換算で59点～40点                  D:科目の総合的評価が認定基準に満たない。100点満点換算で39点以下</p> <p>※D評定は科目未修得(不合格)となる。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>算定基準は、上記及びシラバス規定に従い算出された点数を、下記計算式に当てはめて計算しGPAに準ずる客観的な指標を設定している。</p> <p>(優秀の単位数×3) + (優良の単位数×2) + (良好の単位数×1) ÷ 合計の単位数</p> <p>例 科目①が95点の「優秀」で2単位  科目②が65点の「優良」で4単位  科目③が55点の「良好」で2単位  → (2×3) + (4×2) + (2×1) ÷ 8 = 2 算定成績 = 2</p> <p>※100点満点中39点以下の場合、単位を取得できないので上記計算式には含まない。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	HP <a href="https://www.myros.ac.jp/syllabus/">https://www.myros.ac.jp/syllabus/</a> にて「学習の手引」を公開し、上記の成績評価方法を開示している。
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業審査は以下の規定による。なお、下記の規定に関わらず素行に著しく適正さを欠く者は、校長の判断により、進級、卒業の停止・延期および留年を適用することがある。</p> <p>在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。</p> <p>(1) 1年制学科 修得(合格)科目の時間数合計が850時間以上である。授業は一年を通じて受講しなければならない。</p> <p>(2) 2年生学科 修得(合格)科目の時間数合計が2年間で1700時間以上である。  ※2年制学科を卒業する場合、『専門士』の称号を付与する。</p> <p>(3) 4年生学科 修得(合格)科目の時間数合計が4年間で3400時間以上である。  ※4年制学科を卒業する場合、『高度専門士』の称号を付与する。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	HP <a href="https://www.myros.ac.jp/syllabus/">https://www.myros.ac.jp/syllabus/</a> にて「学習の手引」を公開し、上記の進級・卒業・留年等の基準について情報を開示している。



様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	和歌山コンピュータビジネス専門学校
設置者名	三木 繁清

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	HPに掲載。 <a href="https://www.myros.ac.jp/self/">https://www.myros.ac.jp/self/</a>
収支計算書又は損益計算書	HPに掲載。 <a href="https://www.myros.ac.jp/self/">https://www.myros.ac.jp/self/</a>
財産目録	HPに掲載。 <a href="https://www.myros.ac.jp/self/">https://www.myros.ac.jp/self/</a>
事業報告書	HPに掲載。 <a href="https://www.myros.ac.jp/self/">https://www.myros.ac.jp/self/</a>
監事による監査報告（書）	

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	IT科（4年制）ICT プロフェッショナル コース		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼間	3400 単位時間/単位	1920 単位 時間/単位	1620 単位 時間/単位	0 単位時 間/単位	0 単位時 間/単位	0 単位時 間/単位
			3540 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		28人	0人	5人	1人	6人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

高度情報化社会で専門家に必要な情報技術の基礎知識や、基幹的な資格を取得し、より高度な技術習得に向け、自ら学び社会の動向に柔軟に対応できる人材の育成を目的とする。また組織の一員として、人間味あるコミュニケーションを行い、協働作業等においてリーダーシップを発揮する人材を育成する。

具体的には、J A V A、C #、P y t h o nといったプログラミング言語を取得し、国家資格受験を励行する。

3年目からは企業連携を始め、応用情報技術者試験、さらに高度情報処理技術者試験の取得を目指す。また今後の時代ニーズに沿って、セキュリティコンテスト（CTF）に出場する等、インターネットやネットワークトラブルに対応できるスペシャリストを育成する。

成績評価の基準・方法

（概要）

評価項目は授業態度、出席状況、科目試験の結果、日常確認試験の結果、課題の提出と達成の状況、検定試験・模擬試験の結果、学習への取組姿勢で決定され、評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当者が他

学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行う。評価基準は、「A・B・C」の評価により科目の修得（合格）を認定する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

進級・卒業等は以下の規定による。なお、下記の規定に関わらず素行に著しく適正さを欠く者は、校長の判断により、進級、卒業の停止・延期および留年を適用することがある。

1. 進級 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について進級を認定する。（1）進級 修得（合格）科目の時間数合計が800時間以上である。
2. 仮進級 修得（合格）科目の時間数合計が680時間以上である。680時間未満の学生は原則として留年とする。ただし、特別に配慮すべき事情がある場合に限りに、別途検討する。
3. 卒業 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。
4. （1年制学科） 修得（合格）科目の時間数合計が850時間以上である。授業は一年を通じて受講しなければならない。
5. （2年制学科） 修得（合格）科目の時間数合計が2年間で1700時間以上である。  
※仮進級の学生については、進級基準を満たしておかななければならない。  
※2年制学科を卒業する場合、『専門士』の称号を付与する。
6. （4年生学科） 修得（合格）科目の時間数合計が4年間で3400時間以上である。  
※4年制学科を卒業する場合、『高度専門士』の称号を付与する。

学修支援等

（概要）

クラス担任制をとっており、学生の習熟度を見て補習し、受験させる検定資格を相談の上決定している。年に一度三者面談を行うなど、学生の学習の進捗状況を保護者に伝える。また授業アンケートを毎年行うことで、学生満足度の向上を図っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)

（主な就職、業界等）

IT 業界（運用・開発）部門への就職、また県内就職では IT に関わる仕事一般が該当するが新設コースなので実績なし。

（就職指導内容）

進路指導部が学内に企業を呼び、会社説明会を行うなど、県内外から多くの求人票を頂き、学生に提示している。

(主な学修成果(資格・検定等)) 応用情報技術者試験、基本情報技術者試験、情報セキュリティマネジメント試験、ITパスポート試験。高度情報処理技術者試験。
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
令和5年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
8人	2人	25%
(中途退学の主な理由) 2名が経済的理由により就職を早めた。1名は学内でコース変更を行った。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 校長・担任面談により事情を聴くなど、相談体制をとっている。また欠席が多い学生には、担任が電話をかけて出席を呼びかけるなど、早期から不登校にならないよう組織的に対応している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	IT科(システムエンジニアコース)	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1700 単位時間/単位	872 単位時間/単位	1024 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位
			1896 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
260 人の内数		55 人	0 人	10 人の内数	1 人の内数	11 人の内数	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)	
(概要) 高度情報化社会で専門家に必要な情報技術の基礎知識や、基幹的な資格を取得し、より高度な技術習得に向け、自ら学び社会の動向に柔軟に対応できる人材の育成を目的とする。また組織の一員として、人間味あるコミュニケーションを行い、協働作業等においてリーダーシップを発揮する人材を育成する。 具体的には、J A V A、C #、P y t h o n といったプログラミング言語を取得し、国家資格受験を励行する。	
成績評価の基準・方法	
(概要) 評価項目は授業態度、出席状況、科目試験の結果、日常確認試験の結果、課題の提出と達成の状況、検定試験・模擬試験の結果、学習への取組姿勢で決定され、評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当が他学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行う。評価基準は、「A・B・C」の評価により科目の修得(合格)を認定する。	

卒業・進級の認定基準	
(概要) 進級・卒業等は以下の規定による。なお、下記の規定に関わらず素行に著しく適正さを欠く者は、校長の判断により、進級、卒業の停止・延期および留年を適用することがある。	
4. 進級 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について進級を認定する。(1) 進級 修得(合格)科目の時間数合計が800時間以上である。	
5. 仮進級 修得(合格)科目の時間数合計が680時間以上である。680時間未満の学生は原則として留年とする。ただし、特別に配慮すべき事情がある場合限り、別途検討する。	
6. 卒業 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。	
4. (1年制学科) 修得(合格)科目の時間数合計が850時間以上である。授業は一年を通じて受講しなければならない。	
5. (2年制学科) 修得(合格)科目の時間数合計が2年間で1700時間以上である。 ※仮進級の学生については、進級基準を満たしておかなければならない。 ※2年制学科を卒業する場合、『専門士』の称号を付与する。	
6. (4年生学科) 修得(合格)科目の時間数合計が4年間で3400時間以上である。 ※4年制学科を卒業する場合、『高度専門士』の称号を付与する。	
学修支援等	
(概要) クラス担任制をとっており、学生の習熟度を見て補習し、受験させる検定資格を相談の上決定している。年に一度三者面談を行うなど、学生の学習の進捗状況を保護者に伝える。また授業アンケートを毎年行うことで、学生満足度の向上を図っている。	

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
42人 (100%)	0人 (%)	42人 (100%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) IT業界(運用・開発)部門への就職、また県内就職ではITに関わる仕事一般が該当する。			
(就職指導内容) 進路指導部が学内に企業を呼び、会社説明会を行うなど、県内外から多くの求人票を頂き、学生に提示している。			
(主な学修成果(資格・検定等)) 応用情報技術者試験、基本情報技術者試験、セキュリティマネジメント試験、ITパスポート試験			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状 (IT科システムエンジニアコース)		
令和5年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
55人	0人	0%
(中途退学の主な理由) コース変更によって、当初より1名増え55名になっている。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 校長・担任面談により事情を聴くなど、相談体制をとっている。また欠席が多い学生には、担任が電話をかけて出席を呼びかけるなど、早期から不登校にならないよう組織的に対応している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	IT科 (ITエキスパートコース)	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	昼間		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1700 単位時間/単位	792 単位時間/単位	1220 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位
			2012 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
260 人の内数		63人	0人	10 人の内数	1 人の内数	11 人の内数	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)	
(概要) 高度情報化社会で専門家に必要な情報技術の基礎知識や、基幹的な資格を取得し、より高度な技術習得に向け、自ら学び社会の動向に柔軟に対応できる人材の育成を目的とする。また組織の一員として、人間味あるコミュニケーションを行い、協働作業等においてリーダーシップを発揮する人材の育成を育成する。 具体的にはCAD操作やWEBプログラミング知識を身につけ、ITのソフトウェア操作に慣れる等、2年間で実践的な内容を学習する。	
成績評価の基準・方法	
(概要) 評価項目は授業態度、出席状況、科目試験の結果、日常確認試験の結果、課題の提出と達成の状況、検定試験・模擬試験の結果、学習への取組姿勢で決定され、評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当が他学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行う。評価基準は、「A・B・C」の評価により科目の修得(合格)を認定する。	
卒業・進級の認定基準	

(概要)

進級・卒業等は以下の規定による。なお、下記の規定に関わらず素行に著しく適正さを欠く者は、校長の判断により、進級、卒業の停止・延期および留年を適用することがある。

1. 進級 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について進級を認定する。
  - (1) 進級 修得(合格)科目の時間数合計が800時間以上である。
  2. 仮進級 修得(合格)科目の時間数合計が680時間以上である。680時間未満の学生は原則として留年とする。ただし、特別に配慮すべき事情がある場合に限り、別途検討する。
3. 卒業 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。
4. (1年制学科) 修得(合格)科目の時間数合計が850時間以上である。授業は一年を通じて受講しなければならない。
5. (2年制学科) 修得(合格)科目の時間数合計が2年間で1700時間以上である。  
※仮進級の学生については、進級基準を満たしておかなければならない。  
※2年制学科を卒業する場合、『専門士』の称号を付与する。
6. (4年生学科) 修得(合格)科目の時間数合計が4年間で3400時間以上である。  
※4年制学科を卒業する場合、『高度専門士』の称号を付与する。

学修支援等

(概要)

クラス担任制をとっており、学生の習熟度を見て補習し、受験させる検定資格を相談の上決定している。年に一度三者面談を行うなど、学生の学習の進捗状況を保護者に伝える。また授業アンケートを毎年行うことで、学生満足度の向上を図っている。

卒業者数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
33人 (100%)	0人 (%)	33人 (100%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) IT業界(運用・開発)部門への就職、また県内就職ではITに関わる仕事一般が該当する。			
(就職指導内容) 進路指導部が学内に企業を呼び、会社説明会を行うなど、県内外から多くの求人票を頂き、学生に提示している。			
(主な学修成果(資格・検定等)) ITパスポート試験、CAD利用技術者試験			
(備考)(任意記載事項) この卒業年度の学生は新型コロナウイルスの関係で、留学生の就職状況が悪く、自国へ帰る者が多かった。			

中途退学の現状 (IT 科 IT エキスパートコース)		
令和 5 年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
63 人	2 人	3.1%
(中途退学の主な理由) 2 人がコース変更、2 人が退学した。 経済的理由により就職を早めた。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 校長・担任面談により事情を聴くなど、相談体制をとっている。また欠席が多い学生には、担任が電話をかけて出席を呼びかけるなど、早期から不登校にならないよう組織的に対応している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	IT 科 (コンピュータグラフィックスコース)	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	1700 単位時間/単位	540 単位時間/単位	1436 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位
			1976 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
260 人の内数		25 人	0 人	10 人の内数	1 人の内数	11 人の内数	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 高度情報化社会で専門家に必要な情報技術の基礎知識や、基幹的な資格を取得し、より高度な技術習得に向け、自ら学び社会の動向に柔軟に対応できる人材の育成を目的とする。また組織の一員として、人間味あるコミュニケーションを行い、協働作業等においてリーダーシップを発揮する人材を育成する。 具体的には Photoshop や Illustrator、また 3D ソフト等の操作を学習し、デザインに必要な知識を身につける。
成績評価の基準・方法
(概要) 評価項目は授業態度、出席状況、科目試験の結果、日常確認試験の結果、課題の提出と達成の状況、検定試験・模擬試験の結果、学習への取組姿勢で決定され、評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当者が他学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行う。評価基準は、「A・B・C」の評価により科目の修得 (合格) を認定する。
卒業・進級の認定基準
(概要) 進級・卒業等は以下の規定による。なお、下記の規定に関わらず素行に著しく適正さを欠く者は、校長の判断により、進級、卒業の停止・延期および留年を適用することがある。

1. 進級 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について進級を認定する。  
 (1) 進級 修得(合格)科目の時間数合計が800時間以上である。
2. 仮進級 修得(合格)科目の時間数合計が680時間以上である。680時間未満の学生は原則として留年とする。ただし、特別に配慮すべき事情がある場合に限り、別途検討する。
3. 卒業 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。
4. (1年制学科) 修得(合格)科目の時間数合計が850時間以上である。授業は一年を通じて受講しなければならない。
5. (2年制学科) 修得(合格)科目の時間数合計が2年間で1700時間以上である。  
 ※仮進級の学生については、進級基準を満たしておかなければならない。  
 ※2年制学科を卒業する場合、『専門士』の称号を付与する。
6. (4年生学科) 修得(合格)科目の時間数合計が4年間で3400時間以上である。  
 ※4年制学科を卒業する場合、『高度専門士』の称号を付与する。

学修支援等  
 (概要)  
 クラス担任制をとっており、学生の習熟度を見て補習し、受験させる検定資格を相談の上決定している。年に一度三者面談を行うなど、学生の学習の進捗状況を保護者に伝える。また授業アンケートを毎年行うことで、学生満足度の向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
23人 (100%)	0人 (%)	23人 (100%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) デザイン・ゲーム業界への就職、また県内就職では印刷会社やパッケージ会社、ホームページ制作会社等、デザインに関わる仕事一般が該当する。			
(就職指導内容) 進路指導部が学内に企業を呼び、会社説明会を行うなど、県内外から多くの求人票を頂き、学生に提示している。			
(主な学修成果(資格・検定等)) Photoshopクリエイター能力認定試験、Illustratorクリエイター能力認定試験、色彩検定。その他デザインコンクールへのチャレンジを随時行っている。			
(備考) (任意記載事項) この卒業年度の学生は新型コロナウイルスの関係で、鬱になる学生が2名、進学する学生が2名出た。			

中途退学の現状 (IT科コンピュータグラフィックスコース)		
令和5年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率



25人	2人	8.0%
(中途退学の主な理由) 1名は就職を早め、1名は精神的な病気になったため。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 校長・担任面談により事情を聴くなど、相談体制をとっている。また欠席が多い学生には、担任が電話をかけて出席を呼びかけるなど、早期から不登校にならないよう組織的に対応している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	IT科 (国際 IT ビジネスコース)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1700 単位時間/単位	880 単位 時間/単位	880 単位 時間/単位	0 単位時 間/単位	0 単位時 間/単位	0 単位時 間/単位
			1760 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
260 人の内数		76 人	76 人	14 人の内数	0 人の内数	14 人の内数	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 高度情報化社会で専門家に必要な情報技術の基礎知識や、基幹的な資格を取得し、より高度な技術習得に向け、自ら学び社会の動向に柔軟に対応できる人材の育成を目的とする。また組織の一員として、人間味あるコミュニケーションを行い、協働作業等においてリーダーシップを発揮する人材を育成する。 具体的には留学生の就職に必要なスキル、CAD、WEB ページ作成等 WEB デザインに必要な知識を身につける。
成績評価の基準・方法
(概要) 評価項目は授業態度、出席状況、科目試験の結果、日常確認試験の結果、課題の提出と達成の状況、検定試験・模擬試験の結果、学習への取組姿勢で決定され、評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当者が他学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行う。評価基準は、「A・B・C」の評価により科目の修得 (合格) を認定する。
卒業・進級の認定基準
(概要) 進級・卒業等は以下の規定による。なお、下記の規定に関わらず素行に著しく適正さを欠く者は、校長の判断により、進級、卒業の停止・延期および留年を適用することがある。
1. 進級 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について進級を認定する。 (1) 進級 修得 (合格) 科目の時間数合計が 800 時間以上である。 2. 仮進級 修得 (合格) 科目の時間数合計が 680 時間以上である。680 時間未

<p>満の学生は原則として留年とする。ただし、特別に配慮すべき事情がある場合に限り、別途検討する。</p> <p>3. 卒業 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。</p> <p>4. (1年制学科) 修得(合格)科目の時間数合計が850時間以上である。授業は一年を通じて受講しなければならない。</p> <p>5. (2年制学科) 修得(合格)科目の時間数合計が2年間で1700時間以上である。          ※仮進級の学生については、進級基準を満たしておかなければならない。          ※2年制学科を卒業する場合、『専門士』の称号を付与する。</p> <p>6. (4年生学科) 修得(合格)科目の時間数合計が4年間で3400時間以上である。          ※4年制学科を卒業する場合、『高度専門士』の称号を付与する。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>クラス担任制をとっており、学生の習熟度を見て補習し、受験させる検定資格を相談の上決定している。年に一度三者面談を行うなど、学生の学習の進捗状況を保護者に伝える。また授業アンケートを毎年行うことで、学生満足度の向上を図っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
15人 (100%)	0人 (%)	15人 (93.3%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) デザイン・ゲーム業界への就職、また県内就職では印刷会社やパッケージ会社、ホームページ制作会社等、デザインに関わる仕事一般が該当する。			
(就職指導内容) 進路指導部が学内に企業を呼び、会社説明会を行うなど、県内外から多くの求人票を頂き、学生に提示している。			
(主な学修成果(資格・検定等)) 日本語検定N1、N2の取得を目指しながら、実践的なCADやWEB操作を学習する。ITパスポート試験、MOSの試験を取得する。			
(備考)(任意記載事項) 日本語学校を卒業していても日本語力が拙い学生のために、日本語能力向上を目的に授業を週に1日行っている。			

中途退学の現状 (IT科国際ITビジネスコース)		
令和5年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
76人	12人	15.7%

(中途退学の主な理由) コロナによりアルバイトができなくなったため、経費の関係で進級、卒業を諦めた。
(中退防止・中退者支援のための取組) 校長・担任面談により事情を聴くなど、相談体制をとっている。また欠席が多い学生には、担任が電話をかけて出席を呼びかけるなど、早期から不登校にならないよう組織的に対応している。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	IT 基礎科 (IT ビジネスコース)				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼間	850 単位時間/単位	416 単位時間 /単位	516 単位 時間/単 位	0 単位時 間/単位	0 単位時 間/単位	0 単位時 間/単位
			932 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
5人		0人	0人	0人	0人	0人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 高度情報化社会で専門家に必要な情報技術の基礎知識や、基幹的な資格を取得し、より高度な技術習得に向け、自ら学び社会の動向に柔軟に対応できる人材の育成を目的とする。また組織の一員として、人間味あるコミュニケーションを行い、協働作業等においてリーダーシップを発揮する人材の育成を育成する。 具体的にはCAD操作やWEBプログラミング知識を身につけ、ITのソフトウェア操作に慣れる等、2年間で実践的な内容を学習する。
成績評価の基準・方法
(概要) 評価項目は授業態度、出席状況、科目試験の結果、日常確認試験の結果、課題の提出と達成の状況、検定試験・模擬試験の結果、学習への取組姿勢で決定され、評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当が他学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行う。評価基準は、「A・B・C」の評価により科目の修得(合格)を認定する。
卒業・進級の認定基準
(概要) 進級・卒業等は以下の規定による。なお、下記の規定に関わらず素行に著しく適正さを欠く者は、校長の判断により、進級、卒業の停止・延期および留年を適用することがある。 1. 進級 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について進級を認定する。 (1) 進級 修得(合格)科目の時間数合計が800時間以上である。 2. 仮進級 修得(合格)科目の時間数合計が680時間以上である。680時間未満の学生は原則として留年とする。ただし、特別に配慮すべき事情がある場合に限り、別途検討する。

3. 卒業 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。
4. (1年制学科) 修得(合格)科目の時間数合計が850時間以上である。授業は一年を通じて受講しなければならない。
学修支援等
(概要) クラス担任制をとっており、学生の習熟度を見て補習し、受験させる検定資格を相談の上決定している。年に一度三者面談を行うなど、学生の学習の進捗状況を保護者に伝える。また授業アンケートを毎年行うことで、学生満足度の向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
2人 (100%)	0人 (0%)	1人 (50%)	1人 (50%)
(主な就職、業界等) IT業界(運用・開発)部門への就職、また県内就職ではITに関わる仕事一般が該当する。			
(就職指導内容) 進路指導部が学内に企業を呼び、会社説明会を行うなど、県内外から多くの求人票を頂き、学生に提示している。現状進路指導部で就職先の新規開発を行う他、和歌山県労働政策課やJETROと連携し、県内への就職あっせんに努めており、労働政策課は月に2回、JETROは年に2回企業セミナーの開催を行ってくれている。			
(主な学修成果(資格・検定等)) ITパスポート試験、CAD利用技術者試験			
(備考)(任意記載事項)			

中途退学の現状(IT科 ITビジネスコース)		
R5年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 校長・担任面談により事情を聴くなど、相談体制をとっている。また欠席が多い学生には、担任が電話をかけて出席を呼びかけるなど、早期から不登校にならないよう組織的に対応している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	ビジネス科（公務員マスターコース）	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1700 単位時間/単位	1382 単位時間/単位	612 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位
			1994 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
12人		9人	0人	5人	0人	5人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

公共サービスの提供、国民の生命や財産を守る使命感と実践的能力を持ち、住民との円滑な交流を行える公務員の育成を目指す。知識習得においては過去問題の分析に用いた模擬試験を効率的に行い、密度の高い授業を行い短期間での公務員試験の合格を目指す。

成績評価の基準・方法

（概要）

評価項目は授業態度、出席状況、科目試験の結果、日常確認試験の結果、課題の提出と達成の状況、検定試験・模擬試験の結果、学習への取組姿勢で決定され、評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当が他学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行う。評価基準は、「A・B・C」の評価により科目の修得（合格）を認定する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

進級・卒業等は以下の規定による。なお、下記の規定に関わらず素行に著しく適正さを欠く者は、校長の判断により、進級、卒業の停止・延期および留年を適用することがある。

1. 進級 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について進級を認定する。  
（1）進級 修得（合格）科目の時間数合計が800時間以上である。
2. 仮進級 修得（合格）科目の時間数合計が680時間以上である。680時間未満の学生は原則として留年とする。ただし、特別に配慮すべき事情がある場合に限り、別途検討する。
3. 卒業 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。
4. （1年制学科） 修得（合格）科目の時間数合計が850時間以上である。授業は一年を通じて受講しなければならない。
5. （2年制学科） 修得（合格）科目の時間数合計が2年間で1700時間以上である。  
※仮進級の学生については、進級基準を満たしておかななければならない。  
※2年制学科を卒業する場合、『専門士』の称号を付与する。

学修支援等

(概要) 担任制をとり、担当教員が学生の学修上の助言や指導を行います。各試験情報を定期的に発表し、目指す試験についてのアドバイス等も受けることができません。また公務員試験合格に向けた出願書類作成のサポート、面接指導等も随時実施しています。
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
9人 (100%)	0人 (0%)	8人 (88.8%)	1人 (11.2%)
(主な就職、業界等) 都道府県庁行政職員、市町村行政職員、警察署、消防署、国家一般職、税務職員等、各種公務員。			
(就職指導内容) 公務員試験合格に向けた教養試験対策、及び出願書類作成のサポート、面接指導等も随時実施。			
(主な学修成果(資格・検定等)) 各種公務員試験最終合格。			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
令和5年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
9人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 校長・担任面談により事情を聴くなど、相談体制をとっている。また欠席が多い学生には、担任が電話をかけて出席を呼びかけるなど、早期から不登校にならないよう組織的に対応している。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務専門課程	ビジネス科(公務員専攻コース)					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼間	850 単位時間/単位	691 単位時間 /単位	306 単位時間 /単位	0 時間	0 時間	0 時間
		997 単位時間					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		

50人	24人	0人	5人	0人	5人
-----	-----	----	----	----	----

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

#### （概要）

評価項目は授業態度、出席状況、科目試験の結果、日常確認試験の結果、課題の提出と達成の状況、検定試験・模擬試験の結果、学習への取組姿勢で決定され、評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当者が他学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行う。評価基準は、「A・B・C」の評価により科目の修得（合格）を認定する。

### 成績評価の基準・方法

#### （概要）

進級・卒業等は以下の規定による。なお、下記の規定に関わらず素行に著しく適正さを欠く者は、校長の判断により、進級、卒業の停止・延期および留年を適用することがある。

1. 進級 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について進級を認定する。
  - (1) 進級 修得（合格）科目の時間数合計が800時間以上である。
2. 仮進級 修得（合格）科目の時間数合計が680時間以上である。680時間未満の学生は原則として留年とする。ただし、特別に配慮すべき事情がある場合に限り、別途検討する。
3. 卒業 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。
4. (1年制学科) 修得（合格）科目の時間数合計が850時間以上である。授業は一年を通じて受講しなければならない。

### 卒業・進級の認定基準

#### （概要）

進級・卒業等は以下の規定による。なお、下記の規定に関わらず素行に著しく適正さを欠く者は、校長の判断により、進級、卒業の停止・延期および留年を適用することがある。

1. 進級 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について進級を認定する。
  - (1) 進級 修得（合格）科目の時間数合計が800時間以上である。
2. 仮進級 修得（合格）科目の時間数合計が680時間以上である。680時間未満の学生は原則として留年とする。ただし、特別に配慮すべき事情がある場合に限り、別途検討する。
3. 卒業 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。
4. (1年制学科) 修得（合格）科目の時間数合計が850時間以上である。授業は一年を通じて受講しなければならない。
5. (2年制学科) 修得（合格）科目の時間数合計が2年間で1700時間以上である。
  - ※仮進級の学生については、進級基準を満たしておかなければならない。
  - ※2年制学科を卒業する場合、『専門士』の称号を付与する。

学修支援等
(概要) 担任制をとり、担当教員が学生の学修上の助言や指導を行います。各試験情報を定期的に発表し、目指す試験についてのアドバイス等も受けることができます。また公務員試験合格に向けた出願書類作成のサポート、面接指導も随時実施しています。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
19人 (100%)	0人 (0%)	19人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 都道府県庁行政職員、市町村行政職員、警察署、消防署、国家一般職、税務職員等各種公務員、民間企業等。			
(就職指導内容) 公務員試験合格に向けた教養試験対策、及び出願書類作成のサポート、面接指導等を随時実施。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 各種公務員試験最終合格。			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
令和5年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
24人	2人	8.3%
(中途退学の主な理由) 2名は公務員合格による早期出社の為退学した。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 奨学金の提案や、分割払いの推進を行う。 校長・担任面談により事情を聴くなど、相談体制をとっている。また欠席が多い学生には、担任が電話をかけて出席を呼びかけるなど、早期から不登校にならないよう組織的に対応している。		



分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	ビジネス科（国際ビジネスマネジメントコース）	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1700 単位時間/単位	1560 単位時間/単位	200 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位	0 単位時間/単位
			1760 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
100 人		131 人	131 人	7 人	0 人	7 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）</p> <p>ビジネスシーンにおける様々な資源や資産、リスクなどを管理し、経営上の効果を最適化する手法を学び、国際的なコミュニケーション力を身につける。</p> <p>具体的には、マーケティング、接遇、ビジネスマナー、簿記、パソコンリテラシなどの学習により、幅広い業種におけるビジネススタッフを目指す。</p> <p>併せて、日本語能力習得のため、JLPT 日本語能力試験の N1 合格を目指す。また、検定合格だけに留まらず、アクティブラーニングを取り入れ、より実践的な日本語能力を身につけるための指導を行う。</p>	
成績評価の基準・方法	
<p>（概要）</p> <p>評価項目は授業態度、出席状況、科目試験の結果、日常確認試験の結果、課題の提出と達成の状況、検定試験・模擬試験の結果、学習への取組姿勢で決定され、評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当者が他学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行う。評価基準は、「A・B・C」の評価により科目の修得（合格）を認定する。</p>	
卒業・進級の認定基準	
<p>（概要）</p> <p>進級・卒業等は以下の規定による。なお、下記の規定に関わらず素行に著しく適正さを欠く者は、校長の判断により、進級、卒業の停止・延期および留年を適用することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 進級 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について進級を認定する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）進級 修得（合格）科目の時間数合計が 800 時間以上である。</li> </ol> </li> <li>2. 仮進級 修得（合格）科目の時間数合計が 680 時間以上である。680 時間未満の学生は原則として留年とする。ただし、特別に配慮すべき事情がある場合に限り、別途検討する。</li> <li>3. 卒業 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。</li> <li>4. （1 年制学科） 修得（合格）科目の時間数合計が 850 時間以上である。授業は一年を通じて受講しなければならない。</li> <li>5. （2 年制学科） 修得（合格）科目の時間数合計が 2 年間で 1700 時間以上である。</li> </ol> <p>※仮進級の学生については、進級基準を満たしておかななければならない。</p>	

<p>※2年制学科を卒業する場合、『専門士』の称号を付与する。</p> <p>6. (4年生学科) 修得(合格)科目の時間数合計が4年間で3400時間以上である。</p> <p>※4年制学科を卒業する場合、『高度専門士』の称号を付与する。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>クラス担任制をとっており、担任を中心に学生の生活指導、学習指導、進路指導を行っている。また、学生の7割以上がベトナムからの留学生であることから、ベトナム人スタッフを配置し、学生からの相談にあたっている。近年スリランカ、インド、ネパールの学生割合が増えてきている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
14人 (100%)	1人 (7.2%)	13人 (92.8%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) 就職しないものは帰国、もしくは進学を選択した。			
(就職指導内容) 現状進路指導部で就職先の新規開発を行う、また和歌山県労働政策課やJETROと連携し、県内への就職あっせんに努めており、労働政策課は月に2回、JETROは年に2回企業セミナーの開催を行って来ている。			
(主な学修成果(資格・検定等)) 2021年度新設コースのため、該当データなし。			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
令和5年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
131人	11人	8.3%
(中途退学の主な理由) コロナによりアルバイトができなくなったため、経費の関係で進級、卒業を諦めるケースが多くなった。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学科長、担任、ベトナム人スタッフにより指導を行い、相談体制を取っている。欠席が多い学生には、担任やスタッフから電話やSNSを通じて連絡し、改善が見られない場合は担任、学科長から文書による警告を行うなど、組織的に対応している。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
----	-----	-----	-----	-------

商業実務		商業実務専門 課程	ビジネス科 (4年制) DX 経営イノベーション ンコース				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼間	3400 単位時間/単位	1777 単位 時間/単位	2310 単位 時間/単位	0 単位時 間/単位	0 単位時 間/単位	0 単位時 間/単位
			4087 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	0人	0人	3人	0人	3人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)

(概要)

専門職業人として実践的な能力を磨き、次世代の経営を担う人材を目指す。社会の DX を牽引できるようになるため、経営学や簿記をはじめとする「ビジネス」、データサイエンスやテクノロジー基礎を学び「ICT×DX」、さらに「コミュニケーション」について学習を進める。

併せて、課題発見能力と問題解決能力を培うために、システム思考やデザイン思考などを学び、それらをプレゼンできる能力を養う。次世代のビジネスモデルを構築できる人材を育成するカリキュラムの指導を行う。

成績評価の基準・方法

(概要)

評価項目は授業態度、出席状況、科目試験の結果、日常確認試験の結果、課題の提出と達成の状況、検定試験・模擬試験の結果、学習への取組姿勢で決定され、評価は最終的な科目の到達度に応じた絶対評価を原則とする。また、評価は科目担当が他学科、他教科とのバランスを考慮し、公正かつ大きな不均衡がないように配慮して行う。評価基準は、「A・B・C」の評価により科目の修得 (合格) を認定する。

卒業・進級の認定基準

(概要)

進級・卒業等は以下の規定による。なお、下記の規定に関わらず素行に著しく適正さを欠く者は、校長の判断により、進級、卒業の停止・延期および留年を適用することがある。

7. 進級 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について進級を認定する。(1) 進級 修得 (合格) 科目の時間数合計が 800 時間以上である。
8. 仮進級 修得 (合格) 科目の時間数合計が 680 時間以上である。680 時間未満の学生は原則として留年とする。ただし、特別に配慮すべき事情がある場合に限り、別途検討する。
9. 卒業 在籍する学科において下記の条件を満たす学生について卒業を認定し、卒業証書を授与する。
4. (1年制学科) 修得 (合格) 科目の時間数合計が 850 時間以上である。授業は一年を通じて受講しなければならない。
6. (2年制学科) 修得 (合格) 科目の時間数合計が 2 年間で 1700 時間以上である。  
※仮進級の学生については、進級基準を満たしておかななければならない。  
※2年制学科を卒業する場合、『専門士』の称号を付与する。

<p>6. (4年生学科) 修得(合格)科目の時間数合計が4年間で3400時間以上である。          ※4年制学科を卒業する場合、『高度専門士』の称号を付与する。申請予定。</p>
<p>学修支援等</p>
<p>(概要)          クラス担任制をとっており、学生の習熟度を見て補習し、受験させる検定資格を相談の上決定している。年に一度三者面談を行うなど、学生の学習の進捗状況を保護者に伝える。また授業アンケートを毎年行うことで、学生満足度の向上を図っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)
<p>(主な就職、業界等)          IT業界(運用・開発)部門への就職、また県内就職ではITに関わる仕事一般が該当するが新設コースなので実績なし。</p>			
<p>(就職指導内容)          進路指導部が学内に企業を呼び、会社説明会を行うなど、県内外から多くの求人票を頂き、学生に提示している。</p>			
<p>(主な学修成果(資格・検定等))          応用情報技術者試験、基本情報技術者試験、情報セキュリティマネジメント試験、ITパスポート試験。高度情報処理技術者試験。</p>			
<p>(備考)(任意記載事項)</p>			

中途退学の現状		
令和5年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
<p>(中途退学の主な理由)          実績なし。</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)          実績なし。</p>		

## ②学校単位の情報

### a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
IT	100000 円	550000 円	360000 円	1 年生 ※その他の内 16 万学習活動費
ビジネス	100000 円	550000 円	300000 円	1 年生 ※その他の内 16 万学習活動費
IT	150000 円	350000 円	240000 円	1 年生※留学生対象 その他の内 10 万円学習活動費
ビジネス	150000 円	350000 円	240000 円	1 年生※留学生対象 その他の内 10 万円学習活動費
修学支援 (任意記載事項)				

### b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) HPにて公開 ( <a href="https://www.myros.ac.jp/self/">https://www.myros.ac.jp/self/</a> )		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 「学校関係者評価」の大きな目的は、評価という共同作業を行うことで教職員間、また保護者や地域住民等がお互いに理解を深めることである。学校教育目標に向かうベクトルを合わせることで、双方の協力を目的とする。毎年3月と9月の年2回実施するものとし、委員等の欠席が3分の1以上となった場合は、開催日を起点として前後2週間まで変更するなどを許容し、随時委員会への出席を求めるなど、弾力的な体制をとっている。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
(株)スマート・インサイト	2024/3/1～2025/2/28	企業等委員
(株)和歌山印刷所	2024/3/1～2025/2/28	企業等委員
和歌山情報サービス産業協会	2024/3/1～2025/2/28	企業等委員
和歌山大学システム工学部	2024/3/1～2025/2/28	企業等委員
和歌山大学システム工学部	2024/3/1～2025/2/28	企業等委員

(株)ジーアイソフト	2024/3/1～2025/2/28	企業等委員
(株)システムキューブ	2024/3/1～2025/2/28	企業等委員
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) HPにて公開 ( <a href="https://www.myros.ac.jp/self/">https://www.myros.ac.jp/self/</a> )		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) HPにて公開 ( <a href="https://www.myros.ac.jp/self/">https://www.myros.ac.jp/self/</a> )
---

(添付書類) 経営要件を満たすことを示す資料

学校コード	H130310000045	学校名	和歌山コンピュータビジネス専門学校
設置者名	三木 繁清		

I. ①直前3年度の決算の事業活動収支計算書における「経常収支差額」の状況

	経常収入(A)	経常支出(B)	差額(A)-(B)
申請前年度の決算	328,620,785円	249,918,348円	78,702,437円
申請2年度前の決算	347,098,824円	227,479,150円	119,619,674円
申請3年度前の決算	316,615,292円	205,847,147円	110,768,145円

I. ②直前の決算の貸借対照表における「運用資産-外部負債」の状況

	運用資産(C)	外部負債(D)	差額(C)-(D)
申請前年度の決算	41,634,554円	19,674,960円	21,959,594円

II. 申請校の直近3年度の収容定員充足率の状況

	収容定員(E)	在学生等の数(F)	収容定員充足率(F)/(E)
今年度(申請年度)	527人	411人	77%
前年度	352人	356人	101%
前々年度	352人	388人	110%

大学・短期大学・高等専門学校で、II. 申請校の直近3年度の全ての収容定員充足率が8割未満の場合  
申請前年度に当該学校を卒業した者について、今年度(申請年度)5月1日時点の状況について

(A)又は(B)のいずれかを記載

・申請校の直近の進学・就職率の状況(A)学校基本統計を利用する場合

	卒業生数(G)	進学者数+就職者数(H)	進学・就職率(H)/(G)
申請前年度の状況	157人	156人	99%

・申請校の直近の進学・就職率の状況(B)学校基本統計を利用しない場合

	進学希望者+就職希望者(I)	進学者数+就職者数(J)	進学・就職率(J)/(I)
申請前年度の状況			#DIV/0!

(I. ②の補足資料)「運用資産」又は「外部負債」として計上した勘定科目一覧

○「運用資産」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	資産の内容	申請前年度の決算における金額
投資有価証券	出資金	16,000円
現金及び預金	普通預金、当座預金、現金	41,618,554円
		円

○「外部負債」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	負債の内容	申請前年度の決算における金額
長期借入金	銀行借入	4,905,000円
未払金	社会保険料他	11,431,632円
預り金	高等教育無償化交付金他	3,338,328円

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

# 令和05年分所得税青色申告決算書(一般用)

住所	和歌山県岩出市中島1020-1	フリガナ氏名	三木 繁清	事務所所在地	東京都渋谷区千駄ヶ谷5-32-4 新宿ハイツ1707階
事業所所在地	和歌山県和歌山市黒田41-1	電話番号	(自)0736-62-4762 (事業所)0734-74-0200	氏名(名称)	藤澤 尚範
業種名	専修学校経営	屋号	和歌山コンパニョーリ専修学校	士等	税理士
		加入団体名		電話番号	03-5919-2809



整理番号 07202519

令和6年3月15日 損益計算書 (自 1月1日 至 12月31日)

科目	目	金額	金額	科目	目	金額	金額
科	目	(円)	(円)	科	目	(円)	(円)
売上	売上(収入)金額 (雑収入を含む)	328002711		経費	消耗品費	1243979	
	期首商品高				減価償却費	10654029	
	仕入金額				福利厚生費	15376511	
	小計(②+③)				給料賃金	91522487	
	期末商品高				外注工賃		
	差引原価(④-⑤)		0		利子割引料	170898	
	差引金額 (①-⑥)	328002711			地代家賃	3625800	
経費	租税公課	5970587		貸倒金	1306600		
	荷造運賃		31999	出向者負担金	15863053		
	水道光熱費	4152927		教材費	25609609		
	旅費交通費	6575550		奨励金	8380000		
	通信費	1947069		業務委託料	6863681		
	広告宣伝費	3508954		研修費	6415833		
	接待交際費	500813		学校行事費	4275655		
	損害保険料	413120		雑費	19858363		
	修繕費	3870473		計	248137990		
				差引金額 (⑦-⑩)	79864721		
				科目		金額	金額
				繰戻引当金	⑳		618074
				各種引当金・準備金等	㉑		
				繰入額	㉒		
				繰入額等	㉓		
				計	㉔		618074
				専従者給与	㉕		1300000
				貸倒引当金	㉖		480358
				繰入額等	㉗		
				計	㉘		1780358
				青色申告特別控除前の所得金額 (㉙+㉚-㉛)	㉙		78702437
				青色申告特別控除額	㉚		650000
				所得金額 (㉙-㉚)	㉛		78052437

●青色申告特別控除については、「決算の手引き」の「青色申告特別控除」の項を読んでください。

控用 ○申告には、必ず提出用を使ってください。



# 令和04年分所得税青色申告決算書(一般用)

住所	和歌山県岩出市中島1020-1	フリック氏名	三木 繁清	事務所所在地	東京都渋谷区千駄ヶ谷5-32-4 新宿ハイツビル7階
事業所所在地	和歌山県和歌山市黒田41-1	電話番号	(自宅) 0736-62-4762 (事業所) 0734-74-0200	氏名(名称)	藤澤 尚範
業種名	専修学校経営	専修学校名	和歌山コンピュータ専門学校	電話番号	03-5919-2809



整理番号 07202519

令和5年3月15日 損益計算書 (自 1月1日 至 12月31日)

科 目	金 額 (円)	科 目	金 額 (円)	科 目	金 額 (円)
売上(収入)金額 (雑収入を含む)	346065469	消耗品費	2762673	貸倒引当金	1033355
期前商品(製品)高 棚卸		減価償却費	9106007	繰戻額	
仕入金額(原 製品製造 備)		福利厚生費	2659993	各種引当金・準備金等	
小計(②+③)		給料賃金	5326781	計	1033355
期末商品(製品)高 棚卸		外注工賃	2199241	専従者給与	
差引原価(④-⑤)	0	利子割引料	922272	貸倒引当金	618074
差引金額 (①-⑥)	346065469	地代家賃	4335200	前期損益修正損	340000
租 税 公 課	4868280	貸 倒 金	3340000	繰入額	
荷 造 運 賃	56254	出向者負担金	113851540	計	958074
水道光熱費	3726706	教材費	32760404	青色申告特別控除前の所得金額 (⑧+⑨+⑫)	119619674
旅費交通費	3079670	奨 学 金	8705000	青色申告特別控除額	650000
通 信 費	3902804	支払手数料	719850	所得金額 (⑬-⑭)	118969674
広告宣伝費	10824145	学校行事費	4419532		
接待交際費	160796	検 定 料	2343380		
損害保険料	404570	雑 費	4919225		
修 繕 費	1126753	計	226521076		
		差引金額 (⑰-⑱)	119544393		

●青色申告特別控除については、「決算の手引き」の「青色申告特別控除」の項を読んでください。

控 用 ○申告には、必ず 提出用 を使ってください。

# 令和03年分所得税青色申告決算書(一般用)

住所	和歌山県岩出市中島1020-1	フリガナ氏名	三木 繁清 (当初申告)	事務所所在地	東京都渋谷区千駄ヶ谷5-32-4 新宿ハナビル7F階
事業所所在地	和歌山県和歌山市黒田41-1	電話番号	(自宅) 0736-62-4762 (事業所) 0734-74-0200	依頼税理士等	藤澤会計事務所 藤澤 尚範
業種名	専修学校経営	加入団体名	和歌山県コンピュータ専門学校	電話番号	03-5919-2809



整理番号 07202519

令和4年3月10日 損益計算書 (自 1月1日 至 12月31日)

科目	目	金額 (円)	科目	目	金額 (円)	科目	金額 (円)	
売上 (収入) 金額 (雑収入を含む)	①	315088730	消耗品費	①	4974039	貸倒引当金	②	1526562
	②		減価償却費	②	5807380		③	
売上高	③		福利厚生費	③	1873646	各種引当金・準備金等	④	
仕入金額 (製品) (原価)	④		給料賃金	④	5586075		⑤	1526562
売上高	⑤		外注工賃	⑤	1229450	繰入	⑥	
原価	⑥		利子割引料	⑥	1262533	貸倒引当金	⑦	1033355
原価	⑦		地代家賃	⑦	4930100	固定資産除却損	⑧	
差引金額 (①-⑥)	⑧	315088730	貸倒金	⑧	6915000	繰入	⑨	
租税公課	⑨	4359600	出向者負担金	⑨	104458496	計	⑩	1033360
荷造運賃	⑩	120830	教材費	⑩	22441528	青色申告特別控除前の所得金額 (⑧+⑨-⑩)	⑪	110768145
水道光熱費	⑪	3234713	奨学金	⑪	6210000	青色申告特別控除額	⑫	650000
旅費交通費	⑫	2193178	支払手数料	⑫	731650	所得金額 (⑪-⑫)	⑬	110118145
通信費	⑬	3834712	学校行事費	⑬	1916102			
広告伝費	⑭	11766326	検定料	⑭	3728770			
接待交際費	⑮	1173040	雑費	⑮	4314057			
損害保険料	⑯	1545800	計	⑯	204813787			
修繕費	⑰	1206762	差引金額 (⑧-⑯)	⑰	110274943			

● 青色申告特別控除については、「決算の手引き」の「青色申告特別控除」の項を読んでもください。

控 用 ○申告には、必ず提出用 を使ってください。

学科コース一覧

学科	コース名	区分	1年次	2年次	3年次	4年次	総時間数
IT科 (4年制)	ICTプロフェッショナル	講義	376	408	460	676	1920
		演習	536	500	408	176	1620
IT科	システムエンジニア	講義	416	456			872
		演習	516	508			1024
	ITエキスパート	講義	356	436			792
		演習	616	604			1220
	コンピュータグラフィックス	講義	256	284			540
		演習	676	760			1436
国際ITビジネス	国際ITビジネス	講義	440	440			880
		演習	440	440			880
IT基礎科	ITビジネス	講義	416				416
		演習	516				516
ビジネス科	国際ビジネスマネジメント	講義	760	800			1560
		演習	120	80			200
	公務員専攻	講義	691				691
		演習	306				306
IT基礎科	公務員マスター	講義	691	691			1382
		演習	306	306			612
ビジネス科 (4年制)	DX経営イノベーション	講義	676	465	360	276	1777
		演習	312	498	576	924	2310

設置している学科の一覧（実務教員）

単位時間数 コース別

学科	担当教員	科目	SE1	ICTP1	IE1	CG1	IB1	SE2	ICTP2	CG2	IE2	ICTP3	IIB1	IIB2	IBM1	IBM2	DX1	DX2	DX3	DX4	
I T 1 年	西口 昌克	Illustrator基礎	32	32	32	32	32														
	西口 昌克	Photoshop基礎	32	32	32	32	32														
	西口 昌克	デザイン概論					20														
	西口 昌克	キャラクターデザインⅠ					40														
	西口 昌克	グラフィックデザイン演習Ⅰ					100														
	伊藤 伸	PythonⅠ	60																		
	宮本 樹	情報基礎B	32	32	32	32	32														
	宮本 樹	サーバ演習Ⅰ	40																		
	鍛冶 嶋宏	C#入門	32	32	32	32	32														
	鍛冶 嶋宏	C#基礎	60	60				60													
	鍛冶 嶋宏	ゲームプログラミングⅠ			60	60															
	輪嶋 儀博	キャリアデザインⅠ	16	16	16	16	16														
	輪嶋 儀博	キャリアデザインⅡ	20			20	20	20													
	西村 謙	CADⅠ				40															
	小林 幸実	情報基礎A	48	48	48	48	48														
	小林 幸実	資格試験対策Ⅰ	80	80	80			80													
小林 幸実	ゼミⅠ	20	20	20	20	20															
小林 幸実	企業実習講座	20					20														
I T 2 年	西口 昌克	キャラクターデザインⅡ									92										
	西口 昌克	グラフィックデザイン演習Ⅱ									80										
	西口 昌克	色彩論Ⅱ									36										
	西口 昌克	卒業制作									140										
	西脇 章次	DTP演習Ⅰ				60															
	西脇 章次	DTP演習Ⅱ								108											
	伊藤 伸	PythonⅡ							32												
	伊藤 伸	Java							108												
	宮本 樹	サーバ演習							32												
	宮本 樹	資格試験対策Ⅱ							176	176											
	鍛冶 嶋宏	C#応用	32							32											
	鍛冶 嶋宏	Ruby							72												
	輪嶋 儀博	キャリアデザインⅢ	72			72	72														
	輪嶋 儀博	ヒューマンスキル								72											
	中谷 洗胤	Webプログラミング							88	88		88									
	西村 謙	CADⅠ									40										
西村 謙	CADⅡ										72										
小林 幸実	ゲームプログラミングⅡ				156					96											
小林 幸実	開発上流工程							32	32												
小林 幸実	資格試験対策Ⅱ							176	176		176										
小林 幸実	基本情報技術	60	60				60														
小林 幸実	ゼミⅡ							36	36	36	36										
小林 幸実	卒業制作							140			80										
小林 幸実	企業実習講座								20												
I T 3 年	宮本 樹	サーバ演習Ⅰ												40							
	宮本 樹	資格試験対策Ⅲ												176							
	松浦 正展	エンベデッドシステムⅠ									60										
	輪嶋 儀博	キャリアデザインⅢ									20										
	西村 謙	CADⅡ									72										
	小林 幸実	C言語									48										
	小林 幸実	資格試験対策Ⅲ									176										
	小林 幸実	コミュニケーション技法									36										
	小林 幸実	ゼミⅢ									36										
	小林 幸実	作品制作Ⅱ									48										
小林 幸実	作品制作Ⅲ									60											
国際 I T ・ 2 年	中谷 洗胤	プログラミング演習（Java）														80					
	西村 謙	ビジネスコンプライアンスⅠ											40								
	西村 謙	基礎数学											40								
	西村 謙	PCリテラシ											40								
	西村 謙	ITリテラシⅠ											80								
	西村 謙	ITリテラシⅡ												80							
	西村 謙	CAD演習Ⅰ												120							
	西村 謙	CAD演習Ⅱ													120						
	中谷 洗胤	C#プログラミング													80						
	B u s i n e s ・ 2 年	金島 東治	マーケティングⅠ													80					
金島 東治		マーケティングⅡ														80					
輪嶋 儀博		ビジネス実務法務Ⅰ													80						
輪嶋 儀博		ビジネス実務法務Ⅱ														80					
金島 東治		原価計算													40						
西村 謙		ビジネスコンプライアンスⅠ													40						
O X 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 年	小林 幸実	ベステクノロジ															48				
	小林 幸実	システムの利用と開発															48				
	小林 幸実	マネジメントと戦略															48				
	伊藤 伸	Python															108	72			
	小林 幸実	情報概論															48				
	伊藤 伸	模試															60	63	108	78	
	中谷 洗胤	卒業制作																187			
	小林 幸実	春期講習																72	72	72	
	伊藤 伸	中間制作・企業実習																		180	297
	伊藤 伸	Python応用																		72	
	小林 幸実	後定対策																		216	132
	小林 幸実	企業連携																		36	36
宮本 樹	セキュリティ実習																			216	

各コース合計単位時間	656	472	568	524	524	892	768	492	452	772	400	200	240	240	360	394	684	831
------------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

SE	1548
ICTP	2012
ITE	1020
ITB	524
CG	1016
IIT	600
IBM	480
DX	2269

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H130310000045
学校名 (〇〇大学 等)	和歌山コンピュータビジネス専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	三木 繁清

### 1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者 (家計急変による者を除く)		43人	41人	45人
内訳	第Ⅰ区分	31人	29人	
	第Ⅱ区分	－人	12人	
	第Ⅲ区分	－人	0人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者 (年間)				－人
合計 (年間)				46人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

### 2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	—人	0人	—人
計	—人	0人	—人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人
(備考)					

(3) 退学又は停学(期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。)の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	—人
3月以上の停学	0人
年間計	—人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	0人	0人	0人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	—人	0人	—人
計	—人	0人	—人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。